

ただ 町政を質す



3月定例会(3/4・7)に次の事項について一般質問が行われた。(通告順)

- ◆ 須藤 典夫 議員 …… P11
 - ①「稼ぐ農業」の誘導策はどのようになるか
 - ②小林亦治元参議院議員の胸像も(仮称)「石碑公園」に移設できないか
- ◆ 大場 洋介 議員 …… P12
 - ①ウィズコロナ・ポストコロナのその先を見据えて
- ◆ 中村 忠行 議員 …… P13
 - ①町民との対話を重視した町政に向けて
- ◆ 星川 智子 議員 …… P14
 - ①弱者を支援する事業の予算は削らないで
 - ②高規格道路供用開始に向けた交流人口拡大方策検討委員会のその後について
- ◆ 早坂 憲明 議員 …… P15
 - ①持続可能な町づくりについて
- ◆ 寒河江宏一 議員 …… P16
 - ①選挙公約の進捗状況と今後について
- ◆ 沼澤 道也 議員 …… P17
 - ①最上地域の「道の駅」の動向について
 - ②町農業振興の課題は

一般質問とは

年4回の定例会で行う。議員が町の行政全般について、事業執行の状況や将来の方針等について所信を質し、あるいは、報告や説明を求めるなどの政策論議の場である。

町議会では、質問要旨を事前に通告することとし、60分という限られた時間内で、大所高所からの建設的で簡明な質問が求められている。

金山農業への推進策は

回答「稼ぐ農業」で支援



須藤 典夫 議員

アフターコロナ時代の金山農業

須藤典夫議員 令和3年の稲作は、コロナ禍で需要の落ち込みにより、豊作にもかかわらず概算金、買取価格が下落しており、経営への打撃が懸念されている。この状況を鑑み、町では10アール3000円、県では10000円の支援金が拠出されたことは、農家にとっては有難く評価されると考える。

加工品製造分野の開拓が必須の課題と言える。そこで、町の第5次総合発展計画では「稼ぐ農業」を提起しているが、その具体的な誘導策についてお伺いしたい。

町長 新規就農者への対応として、国の「農業次世代人材投資事業」を中心として支援を行ってきている。

「準備型」と「経営開始型」の2つがあり、「準備型」は県が直接補助金を交付するもので、農林大学校など県が定める研修機関で研修を行う就農希望者に対し、最長2年間、年間最大150万円を交付する制度である。

また「経営開始型」は、全額町が国の補助を受け、町が補助金を交付するもので、新規に就農する方に対し最長5年間、年間最大150万円を交付する内容となっている。

小規模農家への対応

小規模農家については昨年度から開始された事業として、「経営継承・発展等支援事業」というのがある。

この事業は、人・農地プランで中心経営体位置付けられた農業者が、経営を継承する際に、新たに経営を開始する継承者が規模拡大などに必要な経費上限100万円まで支援する事業となっている。ただ、小規模農家への支援という面では、手薄な状況にあると考えている。

大規模、法人、認定農業者への対応

大規模基盤整備事業を含めた現在実施している取り組みを継続しながら、地域振興を含めた地域に根差した集落営農のあり方について情報提供と意見交換

を通じて模索していきたいと考えている。まずは色々な事例を皆さんにご紹介しながら、各地域での集落営農について検討をしていたら、それと、園芸作物については、現在町の主力品目である「ニラ」「キュウリ」について農業部会などを通じ農協と連携し、市場動向、需要を踏まえた園芸品目の推進の取り組みが、今後重要であると感じている。

また、産直出品者の多くの方は自身の加工所を設置し、製造・販売を行っていらっしゃる状況を踏まえ、これまで6次産業化の支援、新商品開発への新事業



ニラっこ 早く刈りたいなー